

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502397), 法人名 (有限会社 レストケア), 事業所名 (グループホームびーぐるマルシェ(B)), 所在地 (札幌市南区川沿16条2丁目4番17号), 自己評価作成日 (平成30年9月7日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の要望により看取り介護を行っている。日常生活での医療、緊急時には当ホームと連携している協力医療機関と24時間体制で対応している。個々の特性を活かし、個別対応に心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&JigvoCd=0170502397-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年3月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市南区郊外の閑静な住宅街に立地する2ユニットのグループホームである。自然に恵まれ、近隣には大型店やバス停があり利便性も良い。室内は広く明るく、昨年内装済みで快適な居住環境である。法人は複数の介護関連事業所を経営し、災害時には利用者の避難受け入れや備蓄品の融通など協力し合う体制となっている。職員は事業所内にある、感染予防委員会、プライバシー保護委員会などの6委員会に夫々所属し、課題を見つけ研修し、運営推進会議にも発表し、ケアの質の充実を図っている。医療面では提携医の定期的な往診と医療経験豊富な代表者のもと健康管理を行い、24時間医療連携がとれる体制にあり、利用者や家族の安心に繋がっている。家族の希望に沿い看取りケアを実施している。事業所主催の夏祭りには子供和太鼓の実演や屋台の出店があり、地域の人々は利用者と共に楽しみ盛況である。地域に溶け込み、高齢者の尊厳と安らぎのある生活を支援している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は、理念を理解し日々の実践に関連つける様努力している。毎日の申し送り時には復唱している。	理念は玄関や事務所に掲示し、パンフレットに明記している。毎日の申し送り時に全員で復唱し、理念の共有をはかり実践に努めている。新人職員には理念について説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方とお会いした際には積極的に、挨拶を交わし、行事等の案内を行い参加して頂いている。	町内会に加入し、行事に参加している。事業所「公報」として年1度、町内に回覧板を通して、事業所行事や生活状況などを報せている。事業所主催の夏祭りでは子ども和太鼓や金魚掬い、屋台などが出て地域の人々も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回広報を出し活動内容を知らせ、又は町内行事に参加し、理解を得る努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者の様子、サービス状況を報告。意見等参考にサービス向上に努めている。	会議は定例に開催し、地域包括支援センター、民生委員、地域の方、利用者家族が参加している。運営、行事、各委員会からの報告があり、ヒヤリハットも報告している。討議内容を尊重し、議事録は家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区主催の研修会、会議への出席や管理者会議、交流会に参加している。区からの問い合わせや相談にも応じている。	行政担当課とは業務報告や連絡、相談などで連絡をとっている。関係者の事業所訪問もある。区主催の研修会や管理者会議出席などで行政の意向を把握し、行政とは常に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束防止委員会を設置し、毎月の会議にて報告、職員間で検討又外部への研修会等への参加、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束適正化検討委員会」は定期的開催し会議内容を記録している。従来から身体拘束防止委員会があり、毎月全体会議にはかり検討している。禁止となる具体的な言動について全員の周知をはかり、内外の研修会に参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で身体虐待防止委員会を設置し、毎月の会議にて報告、職員間で検討又外部への研修会等への参加、虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は研修会に参加、学ぶ機会を持ち、関係者と話し合い、活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や解約の際は文章を基に説明を行い理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見、聞き取りを行い又面会時等に意見要望等、話しやすい環境で対応するように努めている。	家族には「便り」を送付し、事業所内の生活や行事の様子を写真入りで伝えている。面会時や運営推進会議で意見や要望を聞き、家族の意見は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス等で意見や提案を聴く機会を設け運営に反映させている。	管理者は職員の意見を全体会議やカンファレンスで聞いている。代表者は定期的に来訪し全体会議に出席し、意見や要望を聞く他、必要に応じ個人面談も行っている。職員の意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者及び管理者は個人の努力や勤務実績、勤務状況、性格等を把握し、各自が気持ちよく働くことが出来る様環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は職員一人一人の能力を把握し外部研修に参加、受講後、研修報告をまとめ全体会議で報告してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会に参加、同業者との交流により、学んだこと、気づいたことをサービス向上につなげるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望、要望を聴き、不安を理解し信頼関係を作る事が出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、不安事などを、傾聴、出来る範囲でアドバイス等も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じ、本人、家族の思い、困っている事に対して、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は個々の利用者のペースに合わせ、自尊心を傷つけない様、心掛け、出来ない事は支援し、支えあう関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者の日々の生活状況を伝え、時には協力を求め、家族と共に支えていると言う関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親類、家族等の関係が切れる事のないように、又面会しやすい環境作りをしている。	家族や友人来訪時はゆっくり寛げるように支援している。家族には事業所行事を報せ、できるだけ来所するように配慮し、家族の居室での宿泊も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、孤立する事無く、利用者同士良い関係を保つことが出来る様場面、環境作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族様の相談、支援、医療機関との連携により、電話、面会を行い関係を切らない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は家族様の情報や利用者の会話の中から暮らし方の希望、意向に添える様努めている。	利用者の日頃の言動から、希望や意向の把握に努めている。個人記録簿の記述や家族からも情報を得、職員間で情報を共有し、本人の意向に沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、知人からも生活歴や馴染みの暮らし方について聴取し、これまでの、生活やサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のスキンシップ、バイタル測定などを通じ、健康状態を把握、生活記録の情報も含め総合的に判断するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで『利用者の希望、家族からの意見、要望を基に、その人の介護計画を作成』	介護計画は、利用者、家族の意向を聞き、医師、看護師の意見も取り入れ、職員全員で検討し、介護支援専門委が中心となり、作成している。3カ月～6カ月毎にモニタリングを行い、状況変化時には随時検討して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活記録に記入、職員同士にて情報を共有、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ、家族との外出、一時帰宅、外泊など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し町内行事に参加、ホームでの行事も地域の方に案内を送り参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を大切に納得して診療が受けられるようにしている。変化があれば主治医へ連絡、受診している。その都度、家族へも連絡している。	本人希望のかかりつけ医受診や他科受診時は家族と共に通院支援を行っている。健康管理は提携医の月2回の往診と看護師が行っている。24時間医療機関と連携がとれる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報を共有し、利用者の健康管理を支援している。指示を得て、状況に応じ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と常に情報交換を行い、利用者及び家族様に安心して頂ける様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化及び終末期ケアについて、早い段階に家族様と話し合い、ホームの支援について、共有、ご理解を頂く努力をしている。	早い段階で家族と話し合い、「重度化及び終末期のケアの指針」について承諾を得ている。状況が変化した時は家族に再度報告し、医師や看護師、職員と方針を共有し、家族の希望により医療連携のもと看取り介護を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、対応マニュアルを作成し初期対応や連絡体制を整えている。又全体会議において定期的に研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い利用者さんが避難出来るように努めると共に地域の方にも非常時に協力して頂ける様お願いしている。	消防署指導の下避難訓練を昼夜を想定して年2回実施している。地域の人々にも避難訓練実施を報せており、協力を依頼している。備蓄用品の融通や避難者預かりなど、法人として4事業所協力して行っている。	発電機設置など災害時の停電などに備えている。地震、大雨、土砂崩れなどの自然災害についても一人ひとり身を守ることができるように訓練を予定しているので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを尊重した言葉かけ、対応に努めている。	事業所内に「プライバシー保護委員会」があり、研修し、利用者の人格を尊重し尊厳を傷つけないように接遇に配慮している。個人情報記載書類保管に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を尊重し、本人の思いや能力に応じ、対応を行い、納得できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独り一人のペースに合わせ、皆様が毎日心地よく過ごすことが出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや清潔に気を配ると共にその人らしい、おしゃれが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事を活かし、食事の盛り付け、準備、食後の後片付けを職員と共に行っている。	献立は食材会社の栄養士によるが、行事食は利用者の好みのメニューを採用している。利用者は食後の片付けなど、できる事を手伝い、職員と共に席に着き静かな音楽が流れるなか楽しい食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士による献立を採用し水分チェックを行い栄養バランス、水分量を確保出来るようにし、本人の好みに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施、個人の能力に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握、失敗を出来るだけ減らすため、声掛けを行い、気持ちよく、排泄出来る様支援している。	排泄パターンを把握し、適時にさりげなくトイレに誘導し、トイレでの自立排泄に向けて支援している。日中はできるだけトイレを使用しパットやリハビリパンツから布パンツへ移行できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響を理解し、個人の排泄パターンを把握し、歩行運動、水分補給等予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望、タイミングで入浴を楽しめる様支援している。	入浴は原則週2回実施であるが希望やタイミングにより随時対応している。体調によりシャワー浴や清拭も行っている。浴室は清潔で全身シャワー機を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息、身体と精神の安定を保ち、無理する事無く、生活出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について勉強、服薬による変化や病状の変化の発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る能力を把握し役割やゲームなど行い、気分転換や喜びのある生活が出来の様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて、外出、散歩、買い物に出掛けられるよう支援している。	春から秋にかけては、近隣や近くの小公園へ毎日散歩に出かけている。また、外食や大型店への買い物に出かけるなど生活の活性化を図っている。冬季間は安全確保の為外出は少ないが、車で出かけ、窓から「雪まつり」見物を楽しむなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行、本人の能力に応じた使い方が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、いつでも電話や手紙が出せる様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地良く、過ごすことが出来るように配慮し壁には季節に合わせた装飾を行い、インテリアにも気配りしている。	半年前に内装工事をしたこともあり、全館新築したように新しく清潔である。リビングは日当たりが良く、カレンダーや季節の作品が飾られている。暖房は安全なパネルヒーターで加湿器を設置し適温、適湿である。水槽飼育の金魚は利用者の安らぎになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で談話やTV鑑賞が出来る様ソファを置いたり、独りで過ごしたい時には椅子を置くなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みのある家具、私物を使用し頂き、家族様とも相談しながら、居心地良く過ごしていただくよう工夫している。	居室には馴染みの家具を置き、家族の記念写真や趣味の作品を飾っている。身体状況により電動ベットを利用することもできる。家族と相談し居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は手すりの設置やバリアフリーになっており、身体状態が悪化しても安心して生活が出来る様工夫している。		